

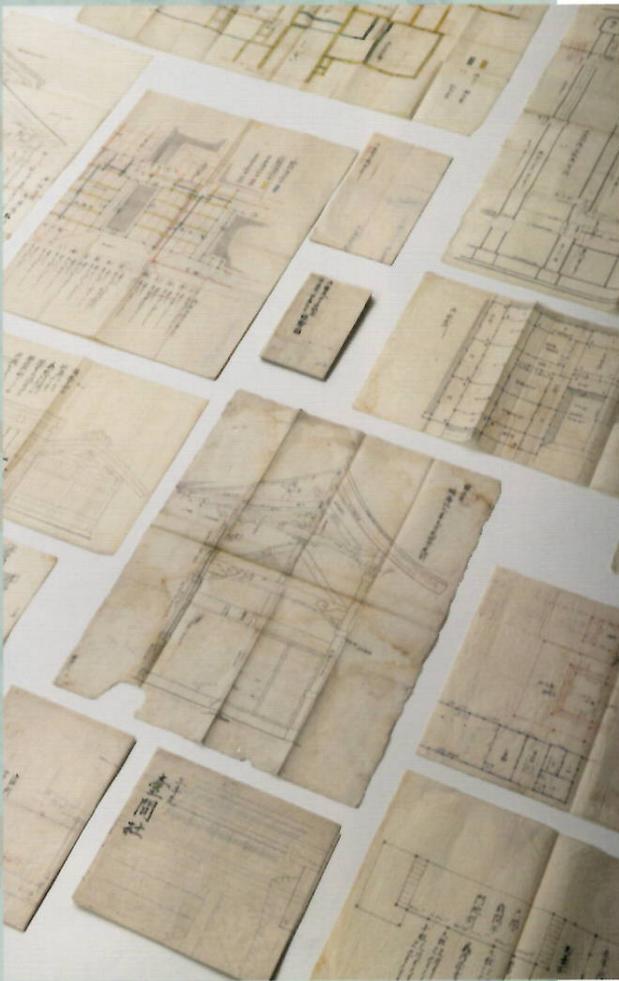
# 文化財 ニュース

27 Summer 2022

有形文化財（歴史資料）

ほんまる にしのまる くてん  
江戸城本丸・西丸御殿建築図面

38点 千代田区所蔵



## 〔資料概要〕

平成 25 年に区内の古書店から一括購入した図面群 52 点を 3 度に渡って調査したところ、18 点が江戸城本丸御殿の図面、20 点が江戸城西丸御殿の図面だと判明し、有形文化財（歴史資料）に指定されました。

## 特集

## 新指定文化財の紹介

令和 4 年 4 月 1 日付けで新たに「龍星閣旧蔵竹久夢二コレクション」と、「江戸城本丸・西丸御殿建築図面」が、区指定文化財になりました。本号では、今回指定された 2 件の文化財について、資料的価値や見どころをご紹介します。

有形文化財（絵画）

龍星閣旧蔵竹久夢二コレクション

616点 千代田区所蔵



竹久夢二「星合」『婦人グラフ』大正 13 年 7 月号挿絵 1924 年

## 〔資料概要〕

平成 27 年に区内の出版社である龍星閣より寄贈された資料群約 1,200 点のうち、竹久夢二に関する美術作品 616 点が有形文化財（絵画）に指定されました。夢二没後に収集された肉筆画や木版画、夢二著作などのほか、龍星閣から出版された書籍も含まれます。

# 龍星閣旧蔵竹久夢二コレクション

千代田区は平成27年(2015)11月、出版社の龍星閣(九段南四丁目8-34)から、大正期を代表する画家の竹久夢二(1884-1934)に関連する資料群約1,200点の寄贈を受けました。区では寄贈後、資料群の整理と調査を継続的に進めてきました。その結果、夢二に関わる美術作品616点が令和4年(2022)4月1日、「龍星閣旧蔵竹久夢二コレクション」として千代田区指定有形文化財に指定されました。今回は、龍星閣旧蔵竹久夢二コレクションの全体像と作品の魅力を紹介합니다。

## 龍星閣旧蔵竹久夢二コレクション

龍星閣の竹久夢二コレクションは幅広いジャンルの絵画作品と、夢二が書き装幀を施した書籍などで構成されています。コレクションの中には、夢二存命中は未出版のままであった作品の下絵が含まれるなど、それぞれの作品がもつ価値だけでなく、コレクション全体を通して夢二がたどった画業の軌跡を追うことのできる点で貴重な作品群です。構成は以下の3つからなります。

### ① 夢二が手掛けた絵画

「夢二式美人」と呼ばれる肉筆画をはじめ、夢二が表紙絵を描いた楽譜とその原画、『婦人グラフ』など雑誌に掲載された挿絵とその原画や、夢二がデザインを担った雑貨店「港屋」の千代紙や絵封筒を中心とした木版画などが含まれます。

### ② 夢二が手掛けた書籍

夢二は表紙や見返し、口絵など書籍の総合的なデザインを行いました。夢二の手掛けた書籍には、『夢二画集』シリーズや『どんたく絵本』などの夢二の著作に加え、谷崎潤一郎や吉井勇など他の著者による書籍が含まれます。

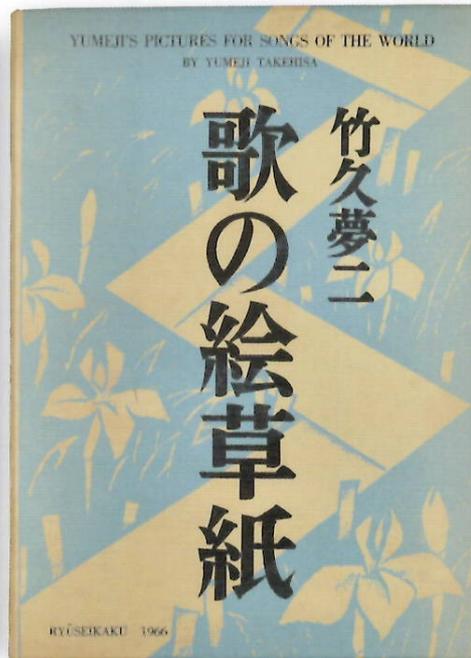
### ③ 龍星閣刊行の夢二関連の画集

夢二の没後、龍星閣が刊行した画集です。夢二著作の挿絵を収録した『忘れ得ぬ人』(1969)など、夢二の画業を紹介し、現在に伝える役割を果たしています。

以下では、龍星閣旧蔵竹久夢二コレクションの特徴をよく表した作品を紹介します。

### 《指定のポイント》

このコレクションは、区内の出版社である龍星閣が収集し、大正期を代表する画家である夢二の美術文化に関わる活動を総合的に示す貴重な作品群です。また、夢二がデザイナーとして多彩に活動したことを示し、近代社会の暮らしに美術文化を普及させた様相をうかがい知ることのできる点で重要な作品群と言えます。



### 竹久夢二 『歌の絵草紙』

龍星閣、1966年

夢二が手掛けたセノオ楽譜の表紙絵を、龍星閣が集めて出版した書籍です。

龍星閣の出版理念は「埋もれたもの、独自のものを掘り出して世に送ること」であり、夢二関連の書籍をはじめとする出版物は、そうした理念に基づいて生み出されたものと言えます。

## 若き日の夢二が描いた 肉筆作品

画文集

『揺籃』

水彩・紙、1903年

紫色のインクで推敲した跡があります。若き日の夢二が抱いていた本作りに対する情熱を感じられる作品です。画文集として出版されることはありませんでしたが、夢二の創作過程を知ることができる点でも貴重な作品です。



## 日常を彩った 夢二デザイン



## 大正期における美術と 音楽の交歓

セノオ楽譜 No.404

『白鳥』

石版・紙、セノオ音楽出版社、1926年

この作品は、弾むようなレタリング、明快な色づかい、そして構成的なデザインが特徴的です。西洋音楽の楽譜が流通した大正期において、夢二は楽譜の表紙絵を数多く手掛けました。

ほんえり  
半襟図案

『No.23 鈴蘭』

ペン、水彩・紙、  
1914-1916年

和服の肌着である襦袢に付ける半襟の図案です。夢二は絵画だけではなく、このような日常生活で使われる品物のデザインも手掛けました。

今回は龍星閣旧蔵竹久夢二コレクションについて、その全体像と作品の一部を紹介しました。千代田区では、今後も引き続き、作品資料の調査、研究を進めていきます。なお、2023年1月から2月にかけて、有形文化財指定を記念した竹久夢二に関する展覧会を開催予定です。次号の文化財ニュースでは、展覧会の見どころとともに竹久夢二について紹介する予定です。展覧会と合わせてどうぞお楽しみに。

(学芸員 平町允)

# 江戸城本丸・西丸御殿建築図面

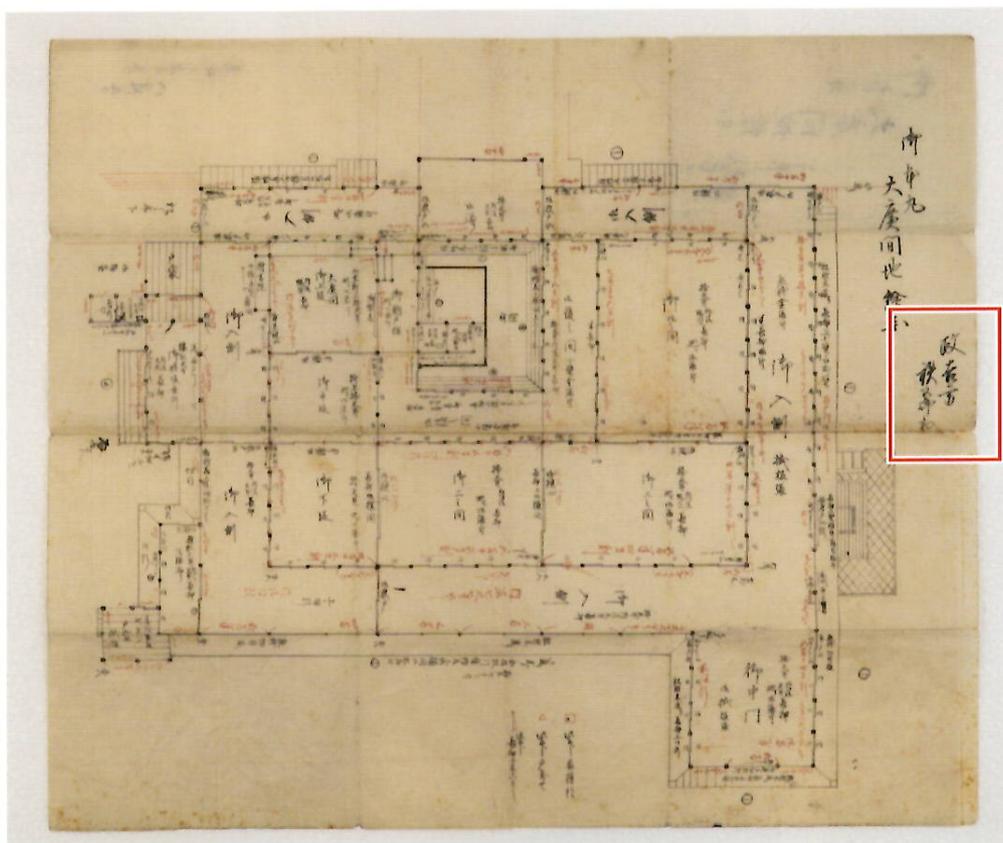
## 1 江戸城本丸・西丸御殿建築図面とは

今も昔も、建物を建てる時に必ず必要となる「建築図面」。江戸時代にも様々な図面が作成され、作事を担当した棟梁や大工は、それらをもとに建築工事に従事しました。今回指定された「江戸城本丸・西丸御殿建築図面」（以下、「江戸城建築図面」と呼ぶ。）は、まさに江戸城内に存在した本丸御殿と西丸御殿を建築する際に使用された図面です。「江戸城建築図面」は、これまで確認されていた他の図面とは異なる特徴を持ち、今後研究に活用される期待があることから、文化財に指定されました。

## 2 何度も再建された江戸城本丸・西丸御殿

江戸城本丸は、政務が行われる政庁であるとともに、将軍一家の住居として江戸城の中核をなし、天守と本丸御殿が築られました。本丸御殿は火災により5回焼失しましたが、その度に再建されました。御殿は表・中奥・大奥で構成され、それぞれ公的空間と私的空間を有していました。一方、西丸には大御所や将軍の跡継ぎが住む場所として、西丸御殿が建てられました。こちらでも度々火災に遭い、4回再建されました。西丸御殿は、本丸御殿が焼失した際に、代わりの政庁としての役割を果たしました。特に、万延元年（1860）に竣工した本丸御殿がわずか3年後の文久3年（1863）に焼失した際には、再建計画中であった西丸御殿を本丸御殿の仮御殿として使用することになりました。この西丸仮御殿は、元治元年（1864）に竣工し、その後本丸御殿が再建されることはなく明治を迎え、明治6年（1873）に焼失するまで、皇居として使用されました。

今回指定された「江戸城建築図面」は、弘化度造営（弘化2年（1845）竣工）と万延度造営の本丸御殿に関する図面18点と、元治元年竣工の西丸仮御殿に関する図面20点で構成されています。



【図1】御本丸大広間地絵図

### 3 「江戸城建築図面」の魅力

#### (1) 江戸城建築現場が見える!?? 現場大工が所持した図面

万延度の本丸御殿建築に従事した大工は「(西丸御受持大工名控)」(都立中央図書館所蔵)に名前の記載があり、この中に登場する政吉・鉄五郎・重蔵3名は本図面中でも確認できます。【図1】の赤枠内には、「政吉方 鉄五郎」の書き込みがあり、鉄五郎が控えた図面であるとわかります。別の図面「(御休息軒・御小座敷軒矩計図)」にも「い印 重蔵方」と書き込みがあり、同図が「い」工区を担当した重蔵によって控えられたものだとわかります。

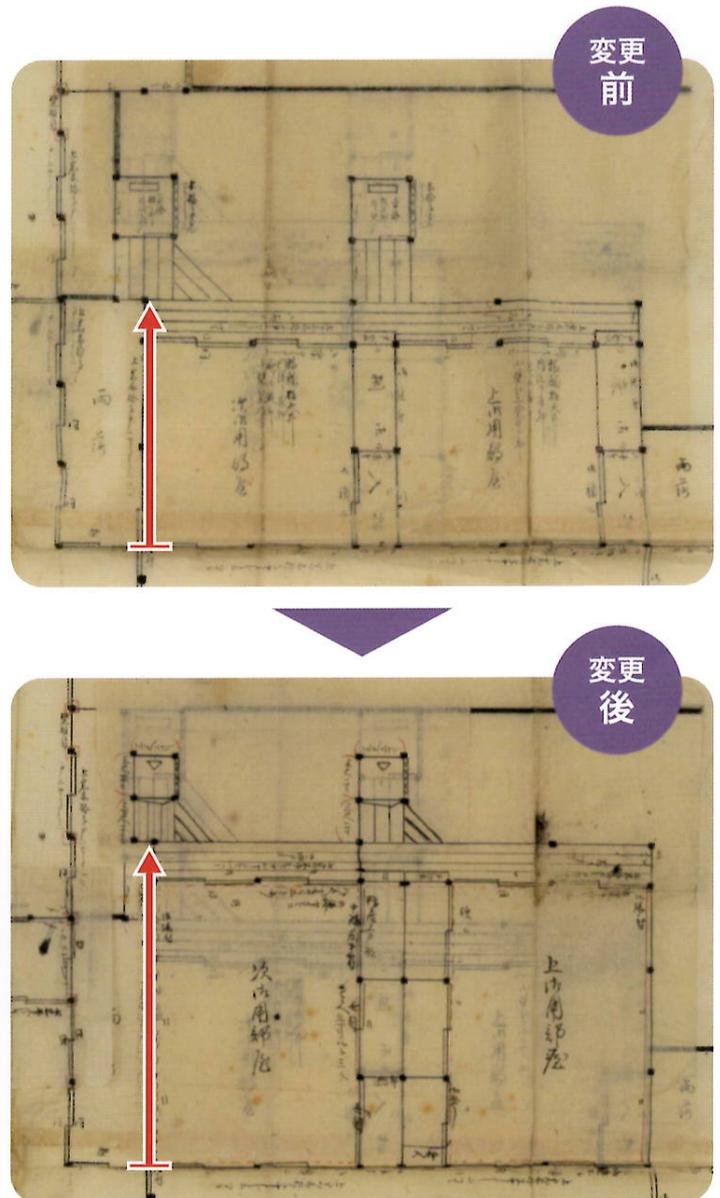
江戸城の御殿建築に関わる図面は、江戸幕府作事方及び小普請方、あるいはその配下の大工棟梁らの手によって管理されたため、現在確認されている図面の多くは、幕府作事方や小普請方を務めた家に伝来したものです。特に、作事方大棟梁・甲良家に伝わった「江戸城造営関係資料(甲良家伝来)」(都立中央図書館所蔵、国指定重要文化財)は、560点に上る図面が残っています。それらに対し、本資料は幕府作事方によって作成された元図の写しで、現場大工が所持されたものと考えられ、実際の建築現場でどのように図面が使用されたか、垣間見ることができます。

#### (2) 新発見! 明らかになった“模様替え”

元治元年の西丸仮御殿に関する図面は、都立中央図書館所蔵の地絵図(平面図)を除いて、ほとんど確認されていませんでした。本資料には、地絵図以外に土台図や矩計図(立面図)、詳細図等、複数種類の図面が含まれており、これまで以上に西丸仮御殿建築の様相を詳しく知ることが可能になりました。例えば、【図2】を見ると、間取りの一部が変更されたことが確認できます。この変更後の間取りは、都立中央図書館所蔵の竣工図とされる地絵図の間取りと一致します。よって、ここで読み取れる設計変更は、竣工前のいずれかのタイミングで実施されたものと推測され、本資料によって初めて確認されました。

紙幅の関係で「江戸城建築図面」の魅力や面白さを十分にお伝えできませんが、『文化財調査報告書 江戸城本丸・西丸御殿建築図面史料』(千代田区教育委員会、2021年)には資料全点の写真を掲載し、解説しています。こちらもぜひお手に取っていただけますと幸いです。

(学芸員 篠原杏奈)



【図2】上図から下図への計画変更  
(上御用部屋・奥御祐筆所・時計之間周辺地絵図)



【写真1】江戸時代の絵草紙屋の再現模型

日比谷図書文化館の常設展示室では、平成23年11月の開館以来、千代田区が解明してきた区域内の様々な歴史・文化を広く発信してきました。今回、開館から10年が経過したこともあり、一部解説内容の見直しや展示替えを行いました。本号では、Ⅰ室～Ⅴ室のうち、特に新たな要素が加わった常設展示室Ⅳ室・Ⅴ室を中心に見どころを紹介していきます。

### 絵草紙屋の再現模型

Ⅳ室は、「江戸から東京へ」と題して、江戸の庶民の暮らしや文化とともに、幕末から明治への移行期に関する歴史的展開について紹介しています。

今回の展示替えでは、令和3年度の特別展「紀伊国屋三谷家コレクション 浮世絵をうる・つくる・みる」に合わせて制作した絵草紙屋の店先再現模型を移設して、江戸の文化の代表ともいえる浮世絵をより身近に感じられるコーナーにしました【写真1】。絵草紙屋とは、浮世絵を販売していた店のことで、現代の本屋に近い存在です。江戸時代、浮世絵は大人から子どもまで、人気の商品となっていました。絵草紙屋の模型からは、色彩豊かな浮世絵が並ぶ当時の店先の様子を体感することができます。

### そのほかの部屋

#### Ⅰ室 発掘されたくらしと環境

千代田区で発見された考古資料を中心に、先史から古墳時代における環境の変化を紹介しています。

#### Ⅱ室 日比谷入江と中世千代田

日比谷入江周辺の歴史を中心に、鎌倉時代から戦国時代にかけて活動した武士たちの動向を紹介しています。

#### Ⅲ室 将軍の城づくり

徳川家康・秀忠・家光の三代にわたる江戸城とその城下町の建設について、発掘調査の成果を中心に紹介しています。

## 千代田区の近代から現代史

V室では、「まちの歴史」と題して、明治から昭和にかけて変化する千代田区内のまちの様子を紹介しています。今回の展示替えでは、4つの地域の歴史【写真2】に加え、新たに明治維新の歴史と、関東大震災から高度経済成長期にいたる現代の歴史に関する展示を設けました。

明治維新の歴史では、東京の誕生とともに江戸城が将軍の城から天皇の城へと変化していく様子を紹介しています。今回紹介しているのは、明治7年(1874)に天皇の警護を目的に新たに組織された近衛歩兵聯隊で、第一聯隊、第二聯隊が現在の北の丸公園内にある日本武道館辺りに兵營が設置されました。展示している煉瓦は、兵營の礎石で、平成29年の発掘調査で新たに発見されたものになります【写真3】。

一方、関東大震災以降の歴史では、現在私達が暮らす千代田区のまちができるまでの流れを紹介しています【写真4】。千代田区にとって、震災と戦災という二度の災害は、その後のまちづくりにも影響を与えた重要な出来事でした。例えば、関東大震災では、多くの建物が被災し、江戸・明治の街並みが失われました。そして震災からの復興の中で、新たに鉄筋コンクリート造りの



【写真4】 関東大震災から戦後高度経済成長に至るまちの変化の紹介



【写真2】 4つの地域の解説  
(大丸有、番町・麹町、駿河台・神保町周辺、内神田・外神田)



【写真3】 近衛歩兵聯隊兵營の紹介コーナー

建築物が造られ、まちは近代的な姿へと変化を遂げました。展示では、災害と復興を繰り返しながら、次第に成長してきた千代田区のまちの姿を、写真資料などを通して見ることができます。

常設展示室では、今後も定期的に展示替えを行いながら、今後も千代田区の歴史や文化の魅力を発信していきます。

(学芸員 山田将之)

文化財事務室では郷土の文化の発展に向けて文化財の保存及び活用をしていくため、千代田区に関連する文化財関係資料の寄贈を受入れています。昨年度は5件の寄贈があり、計480点の資料の受入れを行いました。今回は寄贈された資料を公開するまでの作業の流れを簡単にご紹介します。

まず、寄贈をしていただく際は、文化財事務室へご相談いただいています。お話を伺った上で、「千代田区文化財関係資料取扱要綱」に基づいて手続きを行っていきます。その後、書類の取り交しを経て千代田区に寄贈されると、資料整理を行います。

まずは、収蔵庫に入れる前に、資料のクリーニングや殺虫・殺菌効果のあるガスを使った燻蒸を行います。続いて、資料の保存状態の記録や、作成者や来歴などを調べる他に、撮影や収蔵番号の付与や分類の決定などを行います。これらの工程を経て、ようやくデータベースへの登録を行い、展示などの一般公開に至ります。

書類交付から資料のデータベース登録に至るまでの作業は、どれも資料の活用と保存継承を円滑に行うために欠かせません。作業内容・量によっては資料の公開まで時間が掛かることもあります。文化財ニュースやホームページ上あるいは展示などで随時皆様の目に触れていただけるように進めていますので、次の新収蔵資料の紹介をお楽しみに。(学芸員 井坂綾)



【写真1】大量の資料の場合も、1枚ずつ保存状態を確認して記録を控えています。



【写真2】今号以外にも寄贈資料の紹介を行っています！



都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」徒歩3分  
 東京メトロ ●千代田線  
 ●日比谷線  
 ●丸ノ内線  
 「霞ヶ関駅」徒歩5分

駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 10時～22時  
 土 10時～19時  
 日・祝 10時～17時  
 文化財事務室 月～金 10時～18時  
 ※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。  
 休館日 毎月第3月曜日

文化財ニュース 第27号 (3,000部)

発行日 令和4年7月29日

編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室  
 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4  
 TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361  
 HP: <http://edo-chiyoda.jp>  
 e-mail: [bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp](mailto:bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp)

印刷 日本印刷株式会社